

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)(専門)

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科における教育成果の内容を検討し、成果を評価するための具体的な基準や指標の設定する。	→大学院諸問題検討委員会による上記課題に関する年4回以上の検討委員会の開催。	B	B	B	B	B
2. 研究報告会を開催したり、研究成果の報告機会を設置する。	→年1回の研究報告会の実施。	A	A	A	A	A
3. 研究科における教育全体を評価する全体的なシステムの導入を検討する。	→大学院諸問題検討委員会による大学院システム評価に関する年4回程度の定期的な検討委員会の開催。	D	C	C	B	B

☆

  

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 年4回程度開催される大学院諸問題検討委員会において、教育成果の内容や評価基準や指標の設定について、議論を継続してきた。一つの指標としては博士学位授与数が挙げられる。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 経年の博士学位授与数は、2009年度 4件、2010年度 2件、2011年度5件、2012年度5件、2013年度3件、計19件であった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、学位取得への支援や授業評価の内容の見直しによる指標作成等を検討する。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院諸問題検討委員会における議論を経て、従来より継続している後期課程成果報告会に加えて、前期課程中間報告会の実施を研究科委員会において、審議・決定し、2013年度より開催した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度の前期課程中間報告会におけるアンケート結果の結果は評価が高く、その意義が達成されたと評される。後期課程成果報告会も継続的に実施しており、副指導教員による指導強化を含めて、今後も継続予定である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 更なる学生、教員の出席率の向上を図る。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院諸問題検討委員・FD委員会において、研究科における教育全体を評価する全体的なシステムの導入を検討してきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学位授与基準に係る要件やプロセスについては、明文化し、ホームページや履修心得に掲載している。入学から修了、就職に至る全体的な評価については、検討中である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 社会人学生が多い本研究科の特徴を踏まえた評価指標について、今後検討し、実施を目指したい。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	